

研究

生後4か月児をもつ母親における タッチの養育場面間の相違： 母親の出産経験，授乳方法の違いに注目して

麻生 典子¹⁾，岩立志津夫²⁾

〔論文要旨〕

本研究は、①母親のタッチが基本的属性（年齢・出産経験・授乳方法）により相違が認められるかどうか、②母親のタッチの養育場面間の相違が、出産経験と授乳方法の各群に共通に認められるかどうかを検討した。生後4か月児をもつ901名の母親にタッチ評定尺度を用いた質問紙調査を実施した。主要な結果を以下に記す。

- ①泣きや寝かしつけ場面の部分的タッチ（例：握る）と抱っこカテゴリー（例：抱きあげ）は、初産婦が経産婦よりも多かった。
- ②授乳時の部分的タッチ（例：さわる）と抱っこカテゴリー（例：密着抱き）は、母乳群が混合群や人工群よりも多かった。
- ③母親のタッチは、出産経験と授乳方法が異なっても4つの養育場面ごとに相違が認められた。

Key words：タッチ，母子関係，養育場面，出産経験，授乳方法

I. はじめに

近年、乳児期の親子関係においてタッチを用いたコミュニケーションが注目されている¹⁾。タッチとは、双方向性や情動性等の性質をもち、両者の関係性を示す指標になる²⁾。タッチの感覚は多元様相的で、皮膚が対象に接触したときに起こる触、圧、温、痛の感覚やその複合とされる³⁾。つまり、タッチの感覚は、客観的な身体接触の動きと主観的感覚が含まれるという複雑性を有する。

これまでタッチ研究は、臨床実践において活発に行われてきた。なかでもカンガルーケアやタッチケアの普及はめざましく、早産児の体重増加など子どもの発達に有用な知見が得られている⁴⁾。しかしながら、一方では、乳児に対する直接的なタッチの効果が強調さ

れ、親子間の自然なタッチを用いたコミュニケーションへの注目が不十分であった。

タッチの基礎的研究は極めて少ない。身体接触の潜在的重要性は指摘されていたにもかかわらず、タッチを測定するさまざまな変数が検討対象になることは少なかった¹⁾。これは、タッチの複雑性も一因であるが、従来の研究者の関心の多くが表情や声であったためである¹⁾。例えば、タッチの測定は、タッチするかしないか、あるいは特定のタッチの行為のみ分析された^{5,6)}。また、従来の研究手法の多くは短時間の実験観察であり、乳児が受けるタッチについて養育場面全般の知見が得られていない。

近年になって、タッチを測定するさまざまな変数に注目した研究がみられはじめた。タッチの役割研究では、抱っこは安全性で突っつきは脅かしの意味など、

Differences in Japanese Mother's Touch of Their 4-month-old Infants among Nurturing Scenes :

[2149]

Focusing on Differences in Mother's Birth Experience and Feeding Method

受付 09. 6.23

Noriko ASO, Shizuo IWATATE

採用 11. 5.25

1) 日本女子大学人間社会学部心理学科（臨床心理士/助産師）

2) 日本女子大学人間社会学部心理学科（発達臨床心理士/研究職）

別刷請求先：麻生典子 日本女子大学人間社会学部心理学科 〒214-0037 神奈川県川崎市多摩区西生田1-1-1

Tel : 044-952-6890 Fax : 044-952-6909

乳児に与えるタッチの行為のもつ意味が示された⁷⁾。タッチの理論研究では、Hertenstein が⁸⁾、タッチの概念をタッチの質 (Qualities of touch) とタッチの変数 (Parameters of touch) とに分け、触コミュニケーションモデルを提唱した¹⁾。また、タッチを与える文脈は、乳児へのコミュニケーション効果に影響を及ぼすと述べた。麻生・岩立は、母親のさまざまなタッチが、養育場面 (文脈) ごとに異なることを示した⁸⁾。

先行研究の主な問題点の第1は、自然な親子間のタッチを用いたコミュニケーションへの注目が少なかったことである。第2は、いかにタッチするかというタッチのバリエーションや、タッチとタッチ場面の総合的な解明が不十分であったことである。乳児の日常的な養育状況に対して、母親が与える共通のタッチの特徴を見出すことは、乳児期の母子相互作用におけるタッチの役割の解明に貢献すると考える。

タッチへの関連要因として、母親の精神的健康や出産経験等の報告がある^{9,10)}。本研究では、母親の基本的属性をふまえ、養育場面におけるタッチの特徴を検討する。

タッチにはさまざまな次元があるが、本研究ではHertenstein を参考にして、図1のように研究の枠組

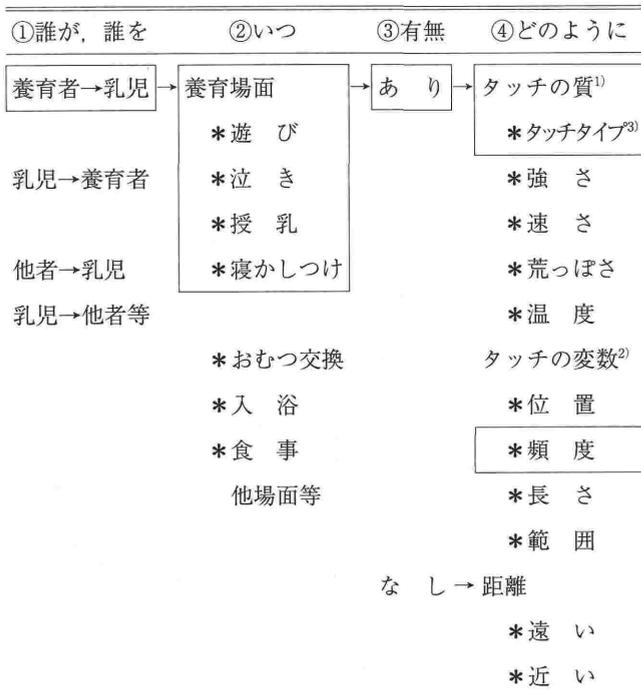


図1 タッチの次元

注 Hertenstein (2002) を参考に作成した。

□の部分、本研究の枠組みである。

¹⁾Qualities of touch。 ²⁾Parameters of touch。

³⁾Hertenstein (2002) では“action”だが、本研究はタッチタイプとした。

みを設定した¹⁾。本研究は、タッチの2者間の双方向性を考慮し、「4つの養育場面 (遊び・泣き・授乳・寝かしつけ) に対して母親が乳児に与えるタッチ」に注目する。タッチの質 (Qualities of touch) としてタッチタイプに、タッチの変数 (Parameters of touch) として頻度に注目する。タッチタイプは、アクションやタッチフォーム等と英訳されることもある¹⁾。本研究では、タッチタイプを、「乳児の皮膚に与える母親のタッチのさまざまな動き」と定義する。本研究の目的と仮説を以下に示す。

1. 目 的

- ①乳児に対する母親のタッチが、基本的属性 (年齢, 出産経験, 授乳方法) によって、相違が認められるかどうか比較検討する。
- ②乳児に対する母親のタッチの養育場面間の相違が、出産経験と授乳方法の各群に共通に認められるかどうかを検討する。

2. 研究仮説

母親のタッチは、出産経験や授乳方法の各群すべてに共通して、養育場面間で相違がある。母親のタッチタイプは、乳児の養育場面に見合った形で応答的に変化する。

II. 研究 方法

1. 調査対象者

関東某市での4か月健診を受診した母親901名のうち返信があった603名 (回収率67%)。著しい欠損値があるものを除いた570名が分析対象となった。

2. 調査期間

調査は2004年11月から2005年9月に行った。

3. タッチ評定尺度の作成

タッチング質問紙⁸⁾を参考に、カテゴリーと養育場面、評定方法の検討を行い、タッチ評定尺度を作成した。

a. カテゴリー

タッチング質問紙⁸⁾で採用したカテゴリー以外にどのようなタッチがあるか21名の母親に面接調査を行った。新たに5項目を抽出した (表1の9. 10. 11. 12. 14)。また、タッチング質問紙⁸⁾のカテゴリー「抱っ

表1 各養育場面におけるタッチカテゴリーの記述統計（出産経験の比較）

カテゴリー	初産婦群								経産婦群								
	遊び(P) ^{注1}		泣き(C)		授乳(F)		寝かしつけ(S)		遊び(P)		泣き(C)		授乳(F)		寝かしつけ(S)		
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	
部分的タッチカテゴリー																	
1 さわる	4.89	0.36	4.16	1.12	3.94	1.27	4.16	1.20	4.84	0.42	4.02	1.15	3.77	1.32	3.91	1.27	
2 なでる	4.73	0.58	4.18	1.06	3.92	1.24	4.25	1.10	4.63	0.67	4.06	1.08	3.78	1.30	4.15	1.07	
3 さする	4.39	0.92	4.20	1.07	3.34	1.39	3.91	1.28	4.33	0.95	4.10	1.13	3.15	1.37	3.72	1.34	
4 持つ	4.72	0.60	3.48	1.32	3.61	1.37	3.17	1.48	4.55	0.74	3.10	1.33	3.30	1.41	2.83	1.46	
5 振る	4.41	0.81	3.03	1.37	1.84	1.00	1.78	1.09	4.11	1.03	2.70	1.32	1.89	1.08	1.74	1.03	
6 叩く	4.05	1.18	4.14	1.19	2.67	1.48	3.92	1.42	3.92	1.25	4.18	1.17	2.46	1.42	3.96	1.24	
7 突つつく	3.82	1.10	2.17	1.21	1.90	1.12	1.43	0.75	3.81	1.06	2.13	1.19	2.02	1.19	1.54	0.92	
8 くすぐる	3.70	1.10	2.20	1.23	1.34	0.69	1.26	0.63	3.74	1.19	2.18	1.23	1.42	0.77	1.32	0.70	
9 握る	4.64	0.68	3.74	1.23	3.80	1.27	3.70	1.41	4.42	0.80	3.43	1.30	3.67	1.33	3.45	1.40	
10 マッサージ	3.05	1.19	2.06	1.12	1.61	0.93	1.88	1.24	2.90	1.20	2.05	1.11	1.59	0.93	1.87	1.17	
11 つまむ	2.35	1.22	1.58	0.86	1.31	0.60	1.23	0.54	2.31	1.26	1.58	0.86	1.37	0.77	1.30	0.71	
12 キスする	4.27	1.08	3.35	1.46	1.92	1.32	3.05	1.59	4.29	1.06	3.17	1.44	1.92	1.22	3.03	1.53	
抱っこカテゴリー																	
13 身体を密着して抱っこする (密着抱き)	4.83	0.51	4.92	0.31	4.56	1.02	4.39	1.11	4.79	0.59	4.87	0.40	4.63	0.94	4.36	1.03	
14 支えるように抱っこする (支え抱き)	4.31	1.07	3.98	1.29	2.84	1.71	2.79	1.56	4.34	1.05	3.88	1.34	2.70	1.63	2.70	1.57	
15 抱きしめる (抱きしめ)	4.46	0.79	4.54	0.89	2.89	1.53	3.60	1.44	4.46	0.89	4.43	0.94	2.86	1.54	3.54	1.48	
16 抱きあげる (抱きあげ)	4.76	0.63	4.92	0.38	2.80	1.65	3.37	1.56	4.74	0.59	4.82	0.44	2.66	1.58	3.24	1.56	
17 抱き変える (抱き変え)	4.62	0.74	4.54	0.87	3.31	1.65	3.52	1.49	4.50	0.90	4.51	0.96	3.22	1.71	3.61	1.38	
18 抱っこで静かに揺らす (揺らす(静))	4.48	0.88	4.66	0.68	2.36	1.47	4.46	0.93	4.47	0.83	4.68	0.69	2.30	1.43	4.34	1.02	
19 抱っこで荒々しく揺らす (揺らす(荒))	2.90	1.33	2.60	1.40	1.22	0.53	1.46	0.93	2.56	1.28	2.26	1.39	1.27	0.62	1.46	0.99	

注 () 内は、カテゴリーの略名である。

注1 () 内のアルファベットは、各養育場面の略式記号である。P(Play)は遊び場面、C(Cry)は泣き場面、F(Feeding)は授乳場面、S(Sleep)は、寝かしつけ場面とした。

こ」を、「身体を密着して抱っこする」と「抱きしめる」の2項目に分け、計19のカテゴリーを設定した(表1)。

b. 養育場面

タッチング質問紙⁸⁾のうちタッチの頻度が高い4場面(遊び・子どもの泣き・授乳・寝かしつけ)を採用した。

c. 評定方法

量的評価が可能なリッカート法による5件法とした。

4. 調査方法

4か月健診の集団離乳食指導の会場で調査主旨を説明し、同意が得られた人に調査用紙(無記名式)を手渡しし、記入後返送してもらった。個別指導が必要とされた母親は対象から除外した。

5. 質問紙の構成

a. 対象者属性

年齢、出産経験、子どもの年齢と性別、授乳方法、育児協力者などを尋ねた。

b. タッチ評定尺度

4つの養育場面毎に19のタッチカテゴリーを、5段階(5:いつもしている, 4:たいていしている, 3:したりしなかったりする, 2:たいていしていない, 1:いつもしていない)で評定した。

c. 母親の精神的健康の査定

Zungの抑うつ尺度(A Self-Rating Depression Scale:SDS)日本版の20項目¹¹⁾と育児ストレス尺度(6か月児用)の21項目¹²⁾を用いた。このうち、本研究では、抑うつ尺度を母親の精神的健康の統制に用いた。スペースの関係で育児ストレス尺度の結果は、本研究には含めなかった。

6. 分析方法

分析には統計ソフトSPSSver13.0を用いた。

a. タッチ評定尺度

5段階で評定し5~1点で得点化した。合計得点の平均を分析に使用した。

b. 抑うつ尺度

4段階で評定し4~1点で得点化した。全20項目の

合計得点を算出した。

7. タッチ評定尺度の信頼性と妥当性

a. 信頼性

タッチ評定尺度の19カテゴリについて、4つの養育場面ごとに、Cronbachの α 係数を算出した。その結果、各場面の α 係数は、遊び場面は0.849、泣き場面は0.845、授乳場面は0.862、寝かしつけ場面は0.861で十分な内的整合性が得られた。

b. 妥当性

先行研究との比較と心理学に従事する教員との協議により、カテゴリと操作的定義の決定を行い、内容的妥当性を高めた。

III. 結 果

1. 対象者の基本的属性

母親の平均年齢は30.9歳（範囲16～42歳）であった。子どもの性別は男児が297人、女児が273人であった。出産経験は、初産婦が336人、経産婦が234人であった。授乳方法は、母乳栄養が267人、混合栄養が165人、人工栄養が138人であった。

2. 母親の類型化

年齢で3群（低年齢群：16歳から29歳、中間群：30歳から35歳、高年齢群：36歳から42歳）と出産経験で2群（初産婦群、経産婦群）、授乳方法で3群（母乳群、混合群、人工群）に類型化した。この際、精神的健康の条件統制のため、抑うつ合計得点50点以上の61人を除外した。対象は、低年齢群235人、中間群193人、高年齢群81人、初産婦群304人、経産婦群205人、母乳群242人、混合群146人、人工群121人となった。

3. 基本的属性要因の効果

各タッチカテゴリの平均と標準偏差を、養育場面と基本的属性の類型別に算出した（表1、表2）。母集団の正規性と等分散性を仮定できなかつたため、Nonparametric検定を選択した。結果は、有意水準5%以上で有意差がみられた項目のみ示した。下位検定の有意水準は、Bonferroni's inequalityによる修正のため1%以上とした。

a. 年齢要因の効果

従属変数を19タッチカテゴリにし、独立変数を年齢要因の3群にしたKruskal-Wallis検定を行った。

下位検定はMan-WhitneyのU検定とした。有意差がみられたカテゴリーを表3に示す。

泣き場面の2項目（振る・握る）と寝かしつけ場面の3項目（さわる・さする・握る）において年齢要因の有意な主効果が認められた。遊びと授乳場面は、年齢要因の主効果がみられたカテゴリーはなかった。

下位検定の結果、泣き場面の「振る」は低年齢群が中間群よりも、「握る」は低年齢群が中間群および高年齢群より有意に平均が高かった。寝かしつけ場面の「さわる」は、低年齢群は中間群よりも有意に平均が高かった。

b. 出産経験要因の効果

従属変数を19タッチカテゴリにし、独立変数を出産経験要因の2群にしたMan-WhitneyのU検定を行った。

遊び場面の4項目（さわる・振る・握る・揺らす（荒））と泣き場面の5項目（持つ・振る・握る・抱きあげ・揺らす（荒））、授乳場面の1項目（持つ）と寝かしつけ場面の3項目（さわる・持つ・握る）で、出産経験要因の有意な主効果が認められた。いずれの項目も初産婦が経産婦より有意に平均が高かった。

c. 授乳方法要因の効果

従属変数を19タッチカテゴリにし、独立変数を授乳方法要因の3群にしたKruskal-Wallis検定を行った。下位検定はMan-WhitneyのU検定とした。

遊び場面の1項目（さわる）と授乳場面の7項目（さわる・なでる・さする・突つつく・密着抱き・抱きしめ・抱きかえ）で、授乳方法要因の有意な主効果が認められた。

下位検定の結果、遊び場面の「さわる」は母乳群が混合群よりも有意に平均が高かった。授乳場面の「さする」と「密着抱き」、「抱きしめ」は母乳群が人工群よりも、「さわる」と「なでる」は母乳群が混合および人工群よりも、混合群が人工群よりも有意に平均が高く、「突つつく」と「抱きかえ」は、母乳群および混合群が人工群よりも平均が有意に高かった。

4. タッチの養育場面間の相違

ここでは、出産経験と授乳方法の属性に注目し、各タッチカテゴリの養育場面要因の効果を検討する。母親の属性群別に、従属変数を各タッチカテゴリにし、独立変数を4つの養育場面にしたFriedman検定を行った。その結果、全属性群の全タッチカテゴリ

表2 各養育場面におけるタッチカテゴリーの記述統計（授乳方法の比較）

カテゴリー	母乳栄養群								人工栄養群								
	遊び (P)		泣き (C)		授乳 (F)		寝かしつけ(S)		遊び (P)		泣き (C)		授乳 (F)		寝かしつけ(S)		
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	
部分的タッチカテゴリー																	
1 さわる	4.93	0.27	4.17	1.11	4.15	1.10	4.05	1.23	4.84	0.39	4.06	1.16	3.28	1.49	4.20	1.17	
2 なでる	4.73	0.57	4.15	1.06	4.21	0.99	4.20	1.12	4.70	0.63	4.17	1.06	3.14	1.49	4.22	1.11	
3 さする	4.40	0.87	4.12	1.18	3.46	1.28	3.99	1.20	4.38	0.94	4.23	1.01	2.89	1.49	3.77	1.38	
4 持つ	4.65	0.63	3.25	1.34	3.62	1.31	3.08	1.46	4.60	0.74	3.36	1.37	3.20	1.51	3.06	1.53	
5 振る	4.24	0.95	2.80	1.38	1.86	1.03	1.78	1.08	4.19	1.04	3.06	1.36	1.77	1.00	1.80	1.09	
6 叩く	3.97	1.28	4.16	1.22	2.67	1.42	3.93	1.31	4.13	1.15	4.21	1.14	2.39	1.43	4.11	1.35	
7 突っつく	3.87	1.10	2.13	1.19	2.07	1.24	1.48	0.85	3.79	1.07	2.32	1.29	1.68	0.96	1.53	0.89	
8 くすぐる	3.68	1.20	2.12	1.18	1.30	0.67	1.27	0.65	3.90	1.05	2.46	1.37	1.45	0.83	1.35	0.75	
9 握る	4.51	0.77	3.57	1.30	3.80	1.22	3.62	1.34	4.60	0.69	3.82	1.24	3.73	1.36	3.66	1.56	
10 マッサージ	3.08	1.17	2.04	1.11	1.60	0.92	1.92	1.24	2.84	1.26	2.04	1.16	1.46	0.82	1.87	1.25	
11 つまむ	2.33	1.22	1.53	0.82	1.33	0.71	1.25	0.66	2.50	1.29	1.69	0.93	1.29	0.63	1.27	0.54	
12 キスする	4.23	1.10	3.24	1.48	1.77	1.20	2.93	1.60	4.41	0.97	3.38	1.39	2.07	1.36	3.30	1.59	
抱っこカテゴリー																	
13 密着抱き	4.81	0.52	4.90	0.32	4.74	0.72	4.42	0.99	4.84	0.53	4.89	0.42	4.23	1.39	4.41	1.08	
14 支え抱き	4.31	1.06	3.86	1.31	2.73	1.68	2.81	1.55	4.34	1.13	4.03	1.39	2.60	1.67	2.69	1.60	
15 抱きしめ	4.48	0.80	4.50	0.88	2.98	1.56	3.62	1.41	4.44	0.84	4.58	0.82	2.57	1.52	3.68	1.46	
16 抱きあげ	4.75	0.59	4.88	0.38	2.73	1.67	3.37	1.56	4.79	0.59	4.86	0.47	2.56	1.59	3.27	1.61	
17 抱き変え	4.59	0.74	4.51	0.91	3.43	1.69	3.55	1.42	4.55	0.89	4.57	0.93	2.75	1.66	3.70	1.52	
18 揺らす(静)	4.52	0.76	4.64	0.69	2.39	1.47	4.41	0.90	4.50	0.88	4.79	0.55	2.21	1.47	4.47	1.03	
19 揺らす(荒)	2.72	1.28	2.52	1.42	1.22	0.60	1.45	0.95	2.82	1.41	2.45	1.46	1.24	0.53	1.37	0.80	

カテゴリー	混合栄養群							
	遊び (P)		泣き (C)		授乳 (F)		寝かしつけ(S)	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
部分的タッチカテゴリー								
1 さわる	4.79	0.51	4.02	1.14	3.89	1.26	3.95	1.28
2 なでる	4.60	0.68	4.08	1.10	3.90	1.21	4.21	1.02
3 さする	4.29	1.00	4.18	1.02	3.26	1.40	3.64	1.38
4 持つ	4.70	0.66	3.43	1.29	3.49	1.40	2.95	1.46
5 振る	4.45	0.73	2.91	1.31	1.92	1.05	1.72	1.01
6 叩く	3.94	1.15	4.10	1.15	2.61	1.54	3.81	1.41
7 突っつく	3.76	1.07	2.05	1.13	1.97	1.11	1.42	0.73
8 くすぐる	3.62	1.10	2.08	1.15	1.42	0.71	1.26	0.58
9 握る	4.60	0.73	3.52	1.22	3.67	1.36	3.52	1.41
10 マッサージ	2.97	1.18	2.09	1.09	1.72	1.02	1.81	1.13
11 つまむ	2.19	1.20	1.57	0.86	1.37	0.65	1.26	0.60
12 キスする	4.25	1.08	3.23	1.47	2.03	1.32	3.02	1.47
抱っこカテゴリー								
13 密着抱き	4.79	0.60	4.90	0.33	4.63	0.89	4.27	1.19
14 支え抱き	4.32	1.01	3.99	1.25	3.03	1.68	2.71	1.57
15 抱きしめ	4.45	0.88	4.44	1.01	2.94	1.48	3.41	1.52
16 抱きあげ	4.74	0.68	4.88	0.40	2.92	1.57	3.28	1.52
17 抱き変え	4.56	0.86	4.52	0.90	3.45	1.58	3.47	1.43
18 揺らす(静)	4.39	0.99	4.60	0.77	2.35	1.41	4.37	1.02
19 揺らす(荒)	2.80	1.30	2.38	1.33	1.26	0.54	1.55	1.06

注. カテゴリー名は表1参照とする。

の平均で養育場面要因の有意な主効果が認められた。

下位検定は、Wilcoxon 符号付順位検定を行った。下位検定の有意水準は1%以上とした。養育場面間の差が3場面間以上でみられたカテゴリーを表4にまとめた。

① 出産経験要因間

a. 初産婦群

遊び場面の13項目（さわる等）と泣き場面の4項目

（密着抱き等）が、他3場面よりも有意に高かった。授乳場面の9項目（さわる等）と寝かしつけ場面の4項目（突っつく等）が他3場面よりも有意に低かった。

b. 経産婦群

遊び場面の13項目（さわる等）と泣き場面の1項目（揺らす(静)）が他3場面よりも有意に高かった。授乳場面の9項目（なでる等）と寝かしつけ場面の3項目（突っつく等）が他3場面よりも有意に低かった。

表3 タッチの年齢比較

カテゴリー	低年齢群		中間群		高年齢群		p	下位検定
	M	SD	M	SD	M	SD		
泣き場面								
振る	3.04	1.38	2.70	1.35	2.92	1.26	*	低>中***注1
握る	3.82	1.22	3.46	1.32	3.41	1.19	**	低>中・高**
寝かしつけ場面								
さわる	4.21	1.19	3.92	1.25	3.95	1.28	*	低>中**
さする	3.92	1.31	3.65	1.34	4.04	1.16	*	
握る	3.73	1.44	3.51	1.38	3.43	1.40	*	

注 * $p < .05$ ** $p < .01$ 有意差がみられたカテゴリーのみ示した。
 注1 グループの記載は、低年齢群 (16~29歳)=低, 中間群 (30~35歳)=中, 高年齢群 (36~42歳)=高とした。

② 授乳方法要因間

a. 母乳群

遊び場面の13項目 (さわる等) と泣き場面の2項目 (密着抱き等) が, 他3場面よりも有意に高かった。授乳場面の8項目 (さする等) と寝かしつけ場面の2項目 (突つつく等) が, 他3場面より有意に低かった。

b. 混合群

遊び場面の12項目 (さわる等) と泣き場面の2項目 (抱きあげ等) が, 他3場面よりも有意に高かった。授乳場面の7項目 (なでる等) と寝かしつけ場面の5項目 (突つつく等) が, 他3場面より有意に低かった。

c. 人工群

遊び場面の12項目 (さわる等) と泣き場面の1項目 (揺らす (静)) が, 他3場面よりも有意に高かった。授乳場面の10項目 (さわる等) が, 他3場面より有意に低かった。寝かしつけ場面は, 他3場面より有意に低い項目はなかった。

IV. 考 察

1. 母親のタッチと基本的属性との関係

年齢比較では, 泣きや寝かしつけ場面の3項目で年齢差が認められたが, 遊びや授乳場面では, 全項目で年齢差が認められなかった。年齢差がみられた項目は, 泣きや寝かしつけ場面の握る等で低年齢群が中間群よりも高かった。出産経験の比較では, 泣きや寝かしつけ場面の8項目 (握る) など, 年齢差が見られた項目を一部含み複数の項目で, 初産婦が経産婦よりも平均が高かった。したがって, 母親のタッチは年齢よりも育児経験との関連が強いと考えた方が妥当と思われる。

泣きや寝かしつけ場面のタッチで, 初産婦が経産婦よりも平均が高い点を考察する。泣きのなだめの実験研究では, 初産婦と経産婦では相違がなかった¹³⁾。ま

た, 短時間の相互作用研究では, 経産婦が初産婦よりも多様なタッチを与えていた¹⁰⁾。本研究結果は, いずれの知見とも一致していない。この理由には, 本研究の検討場面が日常場面であったためと考えられる。経産婦が, 第1子を気遣うプロセスは指摘されている¹⁴⁾。短時間の実験観察ではきょうだいの影響は受けにくい, 日常場面ではやきもちなど上の子の対応におわれることが多い。したがって, 本研究は, 日常生活で母親が上の子を気遣い子育てする現象を捉えたために, 経産婦のタッチが少ない結果を導いたと考えられる。

授乳方法の比較では, 遊び場面の1項目 (さわる) と授乳場面の7項目 (さわる等) において, 母乳群が他群よりも平均が高かった。興味深いのは, 授乳場面の複数のカテゴリーで差が認められたことである。これは, 混合および人工栄養の場合は, 哺乳瓶を支えるため, 物理的にタッチが制限されることも一因である。それと同時に, 母乳栄養の場合は, 非常に密接な身体接触を可能にする方法であることも示唆している。

他のタッチカテゴリー (密着抱き等) においても, 母乳群が多く人工栄養群が最も少なかった。母乳栄養確立と心理・社会的要因との関係は指摘されている^{9,15)}。人工栄養群のタッチが少ない背景として, 今後は母親の心理・社会的要因などの注目が必要であろう。

2. 母親のタッチの養育場面間の差

本研究は, 乳児に対する母親のタッチは, 出産経験や授乳方法の各群すべてに共通して, 養育場面間で相違があると仮説を立てた。結果, 出産経験各2群と授乳方法各3群の全カテゴリーで養育場面間の差が認められ, 本研究の仮説は支持された。この結果には2つの示唆があると考えられる。第1に, 母親のタッチの乳児への機能的意味である。母親は, 乳児の養育場面にふさわしいタッチタイプを本質的に選択していた。これら母親のタッチタイプの変化は, 乳児期の母子相互作用にとって機能的な役割を担う可能性が考えられる。第2は, タッチの場面性である。タッチの意味は場面との関係で生じると言われる¹⁾。本研究の知見は, 同じタッチタイプが場面により異なって使われることを示唆する。したがって, タッチタイプの場面性の影響を裏付けるデータであり, 先行研究を支持する知見である。

表4 3養育場面間以上で有意差があったカテゴリー(属性群別)

カテゴリー	遊び場面が他3場面よりも多い (P>C・S・Fの関係)					泣き場面が他3場面よりも多い (C>P・S・Fの関係)				
	初産婦群	経産婦群	母乳栄養群	混合栄養群	人工栄養群	初産婦群	経産婦群	母乳栄養群	混合栄養群	人工栄養群
部分的タッチカテゴリー										
1 さわる	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
2 なでる	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
3 さする	▲	▲	▲	—	—	—	—	—	—	—
4 持つ	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
5 振る	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
6 叩く	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7 突つつく	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
8 くすぐる	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
9 握る	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
10 マッサージ	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
11 つまむ	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
12 キスする	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
抱っこカテゴリー										
13 密着抱き	—	—	—	—	—	▲	—	▲	—	—
14 支え抱き	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
15 抱きしめ	—	—	—	—	—	▲	—	—	—	—
16 抱きあげ	—	—	—	—	—	▲	—	▲	▲	—
17 抱き変え	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18 揺らす(静)	—	—	—	—	—	▲	▲	—	▲	▲
19 揺らす(荒)	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
合計	13	13	13	12	12	4	1	2	2	1
<hr/>										
カテゴリー	授乳場面が他3場面よりも少ない (F<P・S・Cの関係)					寝かしつけ場面が他3場面よりも少ない (S<P・F・Cの関係)				
	初産婦群	経産婦群	母乳栄養群	混合栄養群	人工栄養群	初産婦群	経産婦群	母乳栄養群	混合栄養群	人工栄養群
部分的タッチカテゴリー										
1 さわる	▲	—	—	—	▲	—	—	—	—	—
2 なでる	▲	▲	—	▲	▲	—	—	—	—	—
3 さする	—	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—
4 持つ	—	—	—	—	—	▲	▲	—	▲	—
5 振る	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6 叩く	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
7 突つつく	—	—	—	—	—	▲	▲	▲	▲	—
8 くすぐる	—	—	—	—	—	—	—	—	▲	—
9 握る	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10 マッサージ	▲	▲	▲	—	▲	—	—	—	—	—
11 つまむ	—	—	—	—	—	▲	—	—	▲	—
12 キスする	▲	—	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
抱っこカテゴリー										
13 密着抱き	—	—	—	—	—	—	▲	▲	▲	—
14 支え抱き	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15 抱きしめ	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
16 抱きあげ	▲	▲	▲	—	▲	—	—	—	—	—
17 抱き変え	—	▲	—	—	▲	—	—	—	—	—
18 揺らす(静)	▲	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—
19 揺らす(荒)	▲	▲	▲	▲	—	—	—	—	—	—
合計	9	9	8	7	10	4	3	2	5	0

注 3場面間以上で1%以上の有意差が見られたカテゴリーに▲をつけた。

3. 各養育場面における母親のタッチの特徴

表4をみると、どの属性群も各養育場面の用いられやすいタッチと用いられにくいタッチがほぼ共通した。遊び場面は、どの属性群でも12~13項目の平均が高く(表4のP>C・S・F)、他の場面に比べて複数のタッチが行われやすかった。カテゴリーも、さわ

るなど穏やかなタッチから、くすぐるなどさまざまな性質のタッチがみられた。タッチの有無と乳児の笑いとの関連は報告されており、本研究でも支持された⁵⁾。つまり、遊び場面の母親は、「笑いを引き出す」ため乳児に多様なタッチタイプを用いると考えられる。

泣き場面は、属性群により異なったが「抱きあげ」

や「揺らす(静)」の平均が高かった(表4の $C > P \cdot S \cdot F$)。「揺らす(静)」は、前庭系-固有感覚刺激のなだめ効果がある¹⁶⁾。つまり、母親は「泣きをなだめる」ため、乳児に静かな振動を与えるタッチを用いると考えられる。

授乳場面は、どの属性群でも7~10項目の平均が低く(表4の $F < P \cdot S \cdot C$)、タッチが少ない場面といえる。しかしながら、授乳場面の中には比較的平均が高いカテゴリー(密着抱き・握る等 表1, 表2)もあった。食事場面の母子相互作用は、乳児の食欲レベルに関係するといわれている¹⁷⁾。母親は乳児の哺乳を阻害しないこれらタッチを選択的に用いている。つまり、母親は「哺乳を安定させる」ため、身体的密着と穏やかなタッチを用いると考えられる。

寝かしつけ場面は、人工栄養群以外の全属性群で「突っつく」の平均が低かった(表4の $S < P \cdot C \cdot F$)。「突っつく」は、乳児に身体刺激を与えるタッチであり、母親は「鎮静を促す」ため、乳児にこれらタッチを用いにくいと考えられる。

以上より、母親のタッチは各養育場面に応じて、用いられやすいタッチ/用いられにくいタッチが存在した。用いられやすいタッチは状況に見合ったタッチで、用いられにくいタッチは見合っていないタッチと考えられる。

4. 臨床場面への応用

本研究で得られた「養育場面に応じたタッチ」の知見をベースに、育児のスキルアッププログラムの開発が可能である。これらプログラムの健全な母親への実践は、不慣れな母親の成長を促し、健全な子どもの発達を支える。また、虐待や養育行動上の問題を抱える母親への実践は、親子関係の構築の改善や修復に貢献すると考える。

5. 本研究の限界と今後の課題

本研究は、一般的な母親を対象にタッチタイプの特徴を検討した。今後は、虐待予備群を対象とした調査から、他のタッチ変数(姿勢や位置, 強さ等)も加味したカテゴリーを加え乳児への影響を検討する。また、タッチ評定尺度の信頼性と妥当性の検討を進めながら、用いられやすい/用いられにくいタッチの意味や乳児への効果、母親の精神的健康とタッチとの関連の検討を行っていく。

V. 結 論

乳児に対する母親のタッチは、養育場面毎に相違が認められた。つまり、母親のタッチは、乳児の養育場面に見合う形で応答的に提供され、機能的な役割を持つ可能性がある。

謝 辞

本研究は、住友生命の「未来を築く子育てプロジェクト」と文部科学省の科学研究補助金(基礎研究(c) No.22530761, 研究代表者: 岩立志津夫)の研究助成を受け行われました。調査にご協力いただいたお母様方と某市の職員の皆様、貴重なご助言を下さいました前日本女子大学本間道子先生に記して深く感謝いたします。

本研究は第56回日本小児保健学会にてポスター発表をした。

文 献

- 1) Hertenstein MJ. Touch: its' communicative functions in infancy. *Human Development* 2002; 45: 81-93.
- 2) Cohn JF, Tronick EZ. Specificity of infants' response to mothers' affective behavior. *Journal of American Academy Child Adolescent Psychiatry* 1989; 28: 242-248.
- 3) 岩村吉晃. タッチ. 東京: 医学書院 2001: 2-24.
- 4) Field T, Hernandez-Reif M, Diego M, et al. Massage therapy by parents improves early growth and development. *Infant Behavior and Development* 2004; 27: 435-442.
- 5) Stack DM, Muir DW. Tactile stimulation as a component of social interchange: New interpretations for the still-face effect. *British Journal of Developmental Psychology* 1990; 8: 131-145.
- 6) Pela'ez-Nogueras M, Field T, Gewirtz JL. The systematic stroking versus tickling and poking on infant behavior. *Journal of Applied Developmental Psychology* 1997; 18: 169-178.
- 7) Tronick EZ. Touch in Mother-infant interaction. In T. Field (Ed.), *Touch in early Development*. New Jersey: Laurence Erlbaum, 1995: 53-63.
- 8) 麻生典子, 岩立志津夫. 0~1歳の乳児期を想定し

た母親のタッチングにおける複数の養育場面間の相違—回顧的方法を用いて—, 小児保健研究 2006 ; 65 (3) : 488-497.

- 9) Field T, Hernandez-Reif M, Fiejo L. Breastfeeding in depressed mother-infant dyads. *Early Child Development and Care* 2002 ; 172 : 539-545.
- 10) Ferber SG. The nature of touch in mothers experiencing maternity blues : the contribution of parity. *Early Human Development* 2004 ; 79 : 65-75.
- 11) 福田一彦, 小林重雄. 自己評価式抑うつ性尺度の研究. *精神神経学雑誌* 1973 ; 75 : 673-679.
- 12) 佐藤達哉, 菅原ますみ, 戸田まり, 他. 育児に関連するストレスとその抑うつ重症度. *心理学研究* 1994 ; 64 : 409-416.
- 13) Kaitz M, Chriki M, Bear-Scharf L, et al. Effectiveness of primiparae and multiparae at soothing their newborn infants. *The Journal of Genetic Psychology* 2000 ; 16 : 203-215.
- 14) 山崎あけみ. 3歳になる第1子を気遣いながら4人家族を形成するプロセス. *日本助産学会誌* 2003 ; 17 : 35-46.
- 15) Malini DP, Janell LM. Maternal breastfeeding attitudes : association with breastfeeding intent and socio-demographics among urban primiparas. *Journal of Community Health* 2008 ; 33 : 53-60.
- 16) Korner AF, Thoman EB. The Relative Efficacy of Contact and Vestibular-Proprioceptive Stimulation in Soothing Neonates. *Child Development* 1972 ; 43 : 443-453.
- 17) 外山紀子. 食事場面における1~3歳児と母親の相互交渉 : 文化的な活動としての食事の成立. *発達心理学研究* 2008 ; 19 : 232-242.

[Summary]

The aims of this study were to compare mothers' touch of their infants according to basic attributes such as mother's age, experience of child birth and feeding method, and then to examine specific differences in mother's touch in nurturing scenes by birth experience and feeding method.

A total of 901 mothers who have 4-month-old infants completed a questionnaire survey which used a touch rating scale. The main results were as follows. (1) In the crying or putting infants to sleep scenes, compared to multipara, primipara employed more touch categorized as partial touch (e.g. holding the infant's hand and feet affectionately) and holding (e.g. picking the infant up). (2) In the feeding scenes, the group of mothers who were breastfeeding employed partial touch and holding more than the groups of mothers who employed mixed feeding or bottle feeding. Lastly, maternal touch was found to differ among the four nurturing scenes, regardless of mother's birth experience and feeding method.

Those findings suggest that mothers' birth experience is related to the maternal touch in the crying or putting infants to sleep scenes, and feeding method is related to the maternal touch in the feeding scenes. Therefore, regardless of mother's basic attributes, maternal touch employed to infants can be considered to differ among the nurturing scenes, and to have functional roles.

[Key words]

touch, mother-infant, relationship, nurturing scene, experience of child birth, feeding method